第３学年　国語科（プログラミング教育）学習指導案

１　単元名　修飾語を使って書こう

２　単元の目標
・主語と述語の関係，修飾と被修飾との関係について理解することができる。
・言葉には性質や役割による語句のまとまりがあることを理解することができる。

３　本時の学習
（１）目標
主語と述語の文に言葉を付け加えて，よりくわしい文を作ることができる。

（２）プログラミングを取り入れる効果
主語と述語の文に動きを加える画像を作成することで，文をくわしくした効果を視覚的に実感することができる。

（３）展開

学習活動	指導上の留意点（◇評価））
１　画像の例を見ることで，本時の活動内容を確認する。	・　修飾語を加えた文を画像で表したものを例示し，本時の活動内容を把握させる。
修飾語を使った文を動きのある絵で表し，友だちに伝えよう	
２　自分の考えた修飾語を加えた文を表す画像を，ビスケットを使って作成する。 ３　友だちが作成した画像を見て，その画像から考えられる修飾語を加えた文を考え発表する。	・　どのような動きを加えると，文の内容がわかりやすくなるか工夫させる。 ・　元になる主語と述語の文を発表させ，その文に修飾語を加えることを伝える。 ・　画像を作成した児童が伝えたかった文を発表させ，どの程度友だちに伝えることができたか検証させる。 ◇　友だちの画像に合った修飾語を加えた文を，ワークシートに書くことができたか。
本時の学び（画像を元に，修飾語を使った文を作ることができたか。）	
４　本時の活動を振り返る。	今回の学習で学んだ修飾語の役割を，日記や作文を書く時に生かしていくよう声かけをする。

４　本時の評価

「十分満足できる」と判断される状況	友だちの画像を見て，主語と述語の文に修飾語を加えた文を作ることができる。
「おおむね満足できる」状況を実現するための手立て	ワークシートに，加えたい修飾語を表すためのイメージ画像を予め考えさせておく。

実践事例報告【第３学年　国語科】

１　授業の様子

「主語＋述語」の基本の文に修飾語を加えた文を動画で表現することを，教師の作例をもとに確認する。子どもたちは，教師の作成した動画から様々な修飾語を想起し，より様子が分かる詳しい文を発表した。
　ただ，この授業は動画を作ることが主な目的ではなく，あくまで動画を通して修飾語の学習を進めていくことが大切であることを強調した。そのことを踏まえたうえで，自分が想定した修飾語を加えた文が友だちに伝わるように，動きを工夫するよう助言した。

　自分が想定した修飾語が伝わるように，動きの速さの他，事物の色，大きさや数を変えるど，子どもたちは自分なりに工夫していた。どのような動きを加えればよいか悩んでいる児童には，動きの例を伝えるなどして個別に対応した。
　その後，作成した動画を児童数名が発表した。どの子も想定した文の内容を分かりやすく表現できていたため，他の児童は，様々な修飾語をつけて，より詳しい文を作り出すことができた。また，友だちの作例を参考にして自分の動画に生かそうとしている児童も見られた。

　最後に，動画を通して児童が作った文を改めて見直した。
　同じ動画を見ても，様々な修飾語を加えることができることや，修飾語を工夫することで，よりくわしく様子を伝えることができることを確認した。
　このことから，身近な生活の中で見られる出来事や風景などをより細かく観察し，修飾語を工夫して文を作ることで，より詳しく分かりやすく様子を相手に伝えることができることを確認し，今後の作文や日記などに生かしていくことを呼びかけた。

２　子どもの反応

「動きを作るのはむずかしかったですが，自分の思ったような動きができた時は，うれしかったです。」
「友だちの作った絵を見て，うまく工夫しているなと思いました。」
「しゅうしょく語はたくさんあって，どの言葉を使うかで，いろいろな文ができると思いました。」

３　授業の成果と課題

　国語とプログラミング学習が当初はあまり結びつかなかったが，今回のように表現の多様性を工夫させる場合は，有効な手法の一つになるのではないかという可能性を感じた。先に文を想定して動画を作成するというプロセスは，実際に文を作る時とは逆の手順ではあるが，修飾語の役割を視覚的に体感できるメリットも感じた。
　今回の学習が，今後，身近な生活や事物をより詳しく観察し，修飾語を工夫して文章をより豊かに表現することにつなげていきたい。動画を作成する楽しさにのみ関心が向き，国語科の目標から逸脱してしまうと本末転倒となってしまう。あくまで教科の目標達成の一手段として，より有効に機能していくよう，手法やプロセスをどう改善していけばよいのか検討していくことが必要であると感じた。